様式3

平成28年　2月4日

平成27年度　結果の分析及び今後の改善策（案）

（　中間・最終　）

呉市立明徳中学校区　校番　22　学校名　呉市立明徳中学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（1年間）経営目標	l 結果の分析（結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案）（こう改善します（案））
★★★ 確かな学力の育成	基礎・基本の学力の定着・向上を図る。	貫 「読み・書き・計算」の基礎・基本を定着させる。	宿題の提出状況については，全学年の五教科の宿題提出率の平均を示している。2年生は1年生の時から，宿題の提出状況が良い状態が続いている。1，3年生は提出率の平均が70%を上回り，1学期よりも改善が見られた。しかし，宿題を提出しない生徒が固定化している状況も引き続き見られる。 学力調査では，全国学力学習状況調査の通過率は，国語Aが69．7，数学Aが53．1，理科の「知識」に関する問題が58．1であり，それぞれ全国平均を大きく下回った。基礎・基本定着状況調査の基礎部分の通過率は，国語80．5，数学84．6，理科63．5，英語86．4であり，県平均を上回っている。	宿題については，これまでの学習習慣が大きく影響しているが，根気強く必要性を実感させる指導を進めていく。1学期より改善が見られたものの，個別に声をかけ，全学年とも最後までやりきるよう今後も継続して指導したい。 また，帰りの会でのドリルタイムは各学年で実施している。3年生は，2学期からドリルタイムを30分延長して学力の定着を図っている。高校入試に向けてさらに力をつけたい。
		貫 9年間を見通した表現力を育成する。	明徳中学校区学習ルールの定着率は，生徒アンケートによると83．5%であり，目標値をわずかに下回った。学習ルールの中でも，特に，授業規律に関するものは定着率が高くなっている。しかし，返事や話をしている人が何を言っているかを考えながら聞くことに関して，1学期よりも割合が下がっている。 書く活動については，国語科を中心に各教科で自分の意見を書かせる指導を行っている。個人で作成する新聞やワークシートの中では，多くの生徒が自分の意見を書くことができている。	授業規律については，今後も100%の定着率を目指して指導を継続する。特に，あいさつや返事について指導がマンネリ化しているので，教職員がこのことを再認識し，指導を徹底したい。 また，聞くことに関しては，1学期よりも割合が下がっているので，授業の中で「聞く」，「話す」，「書く」活動をめりはりをつけて行っていきたい。
★★ 豊かな心の育成	自らを律し，人の自然，社会とのかかわりの中で慣性を磨き，豊かな心を育てる。	基本的生活習慣の確立を図る。	3学期の生活リズムカードの取組の結果，3点固定（起床・就寝・家庭学習）が達成できた生徒の割合は41%で1学期に比べると16%増えた。今年度から生活リズム週間中のめあてを学年別に設定したことで，数値が昨年度に比べると低くなっているが，家庭学習の項目に注目すると，1学期と3学期を比べると家庭学習の習慣がついた生徒は34%増え，学習時間も一人あたり24分増えている。	今年度は，小学校と連携し，共通のテーマで保健だよりに掲載した。学年別平均学習時間を知らせることで家庭学習が習慣化したり，学習時間が増えたりした生徒もいる。課題がある生徒は，固定化しており，来年度も教職員間の連携や保護者との連携を強め，声かけや個別指導等をすすめ，生活習慣について考えさせていきたい。
		自尊感情や自己肯定感等を育成する	体育祭や文化祭では縦割りグループによる活動を行い三年生をリーダーとしてニチーム対抗戦で行うことで生徒同士の関わりやつながりを密にし，高い肯定的な評価を得ることができた。また、一年生の総合的な学習の時間では地域との協働を目標に，地域活性化のために自分達ができることを話し合うことができた。実際に地域に出向いてのインタビューやお菓子のパッケージ作りを通じて地域とつながっていくことの大切さを考えることができた。	来年度以降も縦割りグループによる活動を深めることで生徒自身の自己肯定感の向上につながる行事を仕組んでいきたい。また、地域との協働を意識した総合的な学習の時間の取組も継続させていきたい。
★ 健やかな体の育成	自分の体に関心をもち，健康で安全な生活をしようとする態度を育てる。	保健教育・食育・安全教育を充実する。	今年度は，計画通り，各種訓練，指導教室等は外部機関と連携し，すべて実施できた。また，携帯電話やスマートフォンの使い方についての教室は，年2回実施することができた。各担当者が早めに外部機関と連携し，生徒の実態を踏まえた指導実施につながった。 生徒の授業後の感想文やアンケートから，肯定的な回答をした生徒は，100%で，感想文が中国新聞のヤングスポットにも掲載された生徒もいる。	年度当初に生徒指導部で担当者を明確にし，取り組んでいく。来年度以降も，今年度同様に生徒の実態に応じた指導教室が実施できるよう，生徒の情報を教職員，保護者，地域の方と共有し連携していく。
		基礎体力の向上を図る。	3学期に実施した新体力テストの結果では，とりわけ「上体起こし」「立ち幅跳び」「反復横跳び」の得点の向上が見られたが，「ハンドボール投げ」においては，ほとんど向上が見られなかった。また，各学年及び男女によって，得点の向上に違いが見られる。全運動部による駅伝練習を12月から2月まで行った結果，正しいフォームで走ることができる生徒が増えるとともに持久力の向上が見られた。	全学年の課題として，「ハンドボール投げ」を向上させる必要があるため，球技の授業だけでなく，体つくり運動の単元においても，ボールを投げる活動を多く取り入れる。また，学年や男女によって課題も異なるので課題に応じた活動を選択し課題解決に努めていきたい。